

防災に対する認識を深める社会科学習のあり方 ～鴨川市の地震・津波への対策と元禄地震の被害の学習を通して～

1. 主題設定の理由

社会科において防災を学習する意義は家庭や学校、市が防災に対してどのようなとりくみをしているかといった社会のあり方を学ぶことである。そして、防災に対する社会のあり方を学んだ上で自分自身の生活に立ち返り、被害を最小限にとどめるための備えについて考えてほしい。

その際に現状と歴史の両面から防災について考えることでより実感を伴った防災意識をもつことが出来るのではないかと考え、本主題を設定した。

2. 〈研究仮説〉

仮説1

東日本大震災と鴨川市で過去に起きた地震・津波による大きな被害について調べることで、防災に対するとりくみを自分の問題として意識することができるだろう。

仮説2

東日本大震災後の鴨川市のとりくみについて調べることで、行政や地域が連携して防災に取り組んでいることがわかり、防災に対する認識を深めることができるであろう。

3. 研究内容

○鴨川市の地震・津波への対策と元禄地震の被害を教材化することを通じて、防災に対する認識を深める社会科学習のあり方を明らかにする。

4. 結論

○東日本大震災と元禄地震による地震・津波の大きな被害について調べることで、防災に対するとりくみを自分の問題として意識することができた。

○東日本大震災後の鴨川市のとりくみについて調べたり、家庭や学校のとりくみについて調べることで、市や地域が連携して防災に取り組んでいることがわかり、防災に対する認識を深めることができた。